

【別紙】 参考資料

① 「令和4年度課題解決型ローカル5G等の実現に向けた開発実証」概要

開10	空港制限区域内におけるターミナル間連絡バスの 複数台遠隔型自動運転（レベル4相当）に向けた実証	空港・港湾
実施体制 (下線：代表機関)	東日本電信電話(株)、成田国際空港(株)、KDDI(株)、(株)ティアフォー	実施地域 千葉県成田市 (成田国際空港)
実証概要	少子高齢化を背景として、移動・物流サービスにおける 将来的なドライバー人材不足 が予想され、国際空港では航空機の発着枠に応じた 柔軟な受け入れ態勢 （例：ターミナル間連絡バスのドライバー）の確保が 将来困難になる という課題が存在。 > 空港制限区域内にローカル5G環境を構築し、3つの旅客ターミナル間の自動運転、複数台の遠隔監視映像配信、代替ルートを想定したキャリア通信・ローカル5G切替動作等、 遠隔型自動運転（レベル4*相当）に向けた実証 を実施。 > 自動運転技術の導入を通じ、将来の空港における地上支援業務等の 効率化、省人化、車両事故低減 を実現。	
技術実証	> 空港という特殊な環境における、 航空機、ボーディングブリッジ等の影響を考慮 した電波伝搬モデルの精緻化を実施。 > 周波数：4.8-4.9GHz帯（100MHz） 構成：SA方式 利用環境：屋外	

* 車両開発事業者、運行事業者、空港管理者等の関係者間で合意した限定領域（ODD）を前提として、運転者が介在せずに対応可能なシステム。



出典：株式会社三菱総合研究所 「令和4年度 課題解決型ローカル5G等の実現に向けた開発実証」実証事業企画概要[開発実証事業]

https://pubpjt.mri.co.jp/publicoffer/hprldu0000000211-att/20220725_R4local5g-kaihatu_gaiyou1104.pdf

② ローカル 5G およびキャリア通信のエリア図

図：実証で構築するローカル5Gエリア

